

令和8年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第3回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター 研究員 杉山 拓次

■第3回 春日山原始林と流域を考える（春日山遊歩道北部～鶯の滝～若草山下山）

実施日：2026年5月30日（土）9:00～16:00

参加者：7名（ESD原論：7名）

教職員：杉山、河野、中澤

概要：奈良の街を流れる3つの川の源流域となる春日山を歩き、流域と暮らしのつながりについて考えます。

スケジュール	
9:00	春日大社国宝殿 集合
9:20	一言神社、藤棚、水谷神社
9:30	春日山遊歩道入口（カラスザンショウ、イヌガヤ、カヤ）
9:40	フジ、天然記念物標柱、洞の仏頭石
10:00	モミとナギの比較、月日磐
10:10	ムラサキシキブとヤブムラサキ、ツクバネガシ倒木のギャップ、植生保護柵
10:40	五感のたいそう
10:50	春日山遊歩道を歩きながら樹木・植物・動物等について解説
12:20	十八丁休憩舎にて昼食
13:10	奥山ドライブウェイを鶯の滝に向けて移動（途中解説）
14:00	鶯の滝到着、遊歩道へ向けて登山道に戻る
15:20	若草山山頂
16:00	若草山下山、野上神社前にて解散

■概要報告

今回も「ESD ティーチャープログラム」の学生の参加はなく、「ESD 原論」の履修学生のみを対象としたフィールドワークとなりました。前回までに比べると人数は10人以下であったため、それぞれで出身地、専修、楽しみにしていることを発表してスタートしました。

道中は途中まで前回同様のルートであったため、春日大社国宝殿前から出発し、境内の末社や藤棚を巡りながら水谷神社へ。今回のフィールドワークでは、水谷川、佐保川、能登川と3つの川の源流域となっている春日山は環境にあるのか、という点に重点を当てながら解説していきました。

今回参加の学生は、理科専修の学生が複数いたため、自然環境への関心がこれまでよりも高い印象にありました。また、これまでと同様の樹木等の解説のほか、アオゲラやヤマガラ、キバシリなどの野鳥に遭遇したり、シマヘビやタゴガエル、オオセンチコガネなどの生き物にも遭遇する機会となりました。この日は、晴天であったものの原始林内は木陰が気持ちよく、五感の体操でも森の空気や音を楽しめたようでした。

奥山ドライブウェイでは、原始林の途中から人工林となる場所で森の風景が全く異なることなど、

それぞれが歩きながら気づきをつぶやいていることが印象的でした。

途中、生き物等の発見も多かったことにより想定よりも終了時間が遅くなってしまいましたが、下山時には、皆晴れ晴れとした表情で気持ちの良い1日を過ごせたようでした。

■写真



洞の仏頭石の解説



シマヘビを見つける



春日山人工林



倒木してしまった春日山最大のヤマザクラ



世界遺産の記念碑にて集合写真



佐保川の源流にあたる鶯の滝



若草山三重目からの風景



若草山一重目に繁茂するナンキンハゼ